

- 1 咳をするたびにオリオン座がうごく
- 2 なまこ嘔む空気のように集まりて
- 3 セーターに海満たそうと脱いでいる
- 4 枕だんだん温かくなる冬の波
- 5 迷いこむ鯨に話しかけている
- 6 鯨去り襟に刺繍の戻りくる
- 7 みぞおちを白菜のため空けておく
- 8 鈴落とし冬田の先に冬田かな
- 9 鼻が聞こえてくるころ茶がぬるい
- 10 前髪を切りそろえる日のうさぎかな
- 11 枯園のあちこちに椅子かたまりし
- 12 鯛焼きの袋の絞りやすきかな
- 13 冬休みゆっくり部屋を切る鋏
- 14 ポインセチア母に洗札名のあり
- 15 マトリョーシカの箱開けきって皇居かな
- 16 寒椿人に冷たい手で触る
- 17 争いは好まぬスケート場つくる
- 18 はじめから悴んでいる赤い靴
- 19 時計のない部屋に置かれてひび薬
- 20 空箱と思えば雪の降りやまない
- 21 真夜中の顔に水餅沈めたる
- 22 恋猫は接写するたびぶれており
- 23 みな口を小さく持ちて伊勢参り
- 24 如月のかかとが夜を連れてくる
- 25 啓蟄の重く鳴りたる時計かな

- 26 しらじらと崖晴れてくる卒業歌――
- 27 シンバルを白黒写真のように持つ――
- 28 春雨の前から白い動物園――
- 29 三楹の花手を引いて手を引かれ――
- 30 やわらかいケーキの箱に立つ陽炎――
- 31 鉛筆を尖らせ春の無線室――
- 32 朝刊の薄い日に見るむつごろう――
- 33 ぺたんこの袋で見に行きたい仔馬――
- 34 貨幣のようなおにぎり食べる桜かな――
- 35 父親はくぐって入る雛の間――
- 36 花莫塵の沖に向かってゆく眠り――
- 37 たそがれの船はうごかぬうごいている――
- 38 泣くときは牡丹のような肺である――
- 39 ゆっくりと裏からめくり錦鯉――
- 40 からっぽの檻かたつむり出ていたる――
- 41 蓋ゆるく開けたるタベこいのぼり――
- 42 埋葬のようにレジ開く半夏生――
- 43 あやとりの橋ひらく指涼しかり――
- 44 芍薬のそばでもう一枚羽織る――
- 45 入口に少し階段ゆすらうめ――
- 46 夏帽の上から傘をさしている――
- 47 蜜豆のそばでくずれる絵本かな――
- 48 すべり台の途中に座る夏の雲――
- 49 木星の心地で噴水見ていたり――
- 50 白靴を貝殻のようにぬいでくる――

- 51 泳ぎだす背に続いていくひかり
- 52 神様の休みどころや蟻地獄
- 53 摺り足の近づいてくる日射病
- 54 みな鰭を隠して座る木下闇
- 55 夏痩せの折り鶴の腹ふくらます
- 56 夏痩せの人の大きな影が伸び
- 57 釣堀に裏返っているもの多し
- 58 籐椅子は回転木馬のように鳴く
- 59 ごきぶり叩く芯のない筒づくり
- 60 百年は泉のごとくランプさす
- 61 賭け事は肩につめたき蟻のせて
- 62 タクシーでずっと握っている日傘
- 63 ハンカチは都会のにおいさせており
- 64 空蟬や紙飛行機の跳ねて落つ
- 65 向日葵のさまざま割愛されており
- 66 夕焼くる犬を一匹洗い終え
- 67 暗幕を開いて馬を冷しおり
- 68 終戦日みな牛のように眠る
- 69 ひぐらしを壊さぬようにスープ飲む
- 70 おしろい花眼鏡をかけた目が小さい
- 71 草ひばり瓶から空の開かれて
- 72 蓋取ればインク真っ青震災忌
- 73 中元をかすれた声で受け取りぬ
- 74 中元の箱展開する白さかな
- 75 星抱えきれなくなって硯洗う

- 76 秋の蜂白いペンキを塗りかさね
- 77 切符持つ人順番に羊雲
- 78 転校生孔雀の羽を拾いたる
- 79 ひきこもる犀に秋雨はじめから
- 80 台風のうちら映写機のはたらきぬ
- 81 中心は傷ついてない花野かな
- 82 渡り鳥が焼きついている家族写真
- 83 ちり紙の軽さで鹿の待っている
- 84 石鹼を乾かしている子規忌かな
- 85 十六夜にあかるくしたる膝小僧
- 86 紙たくさん拾い集めて小鳥くる
- 87 ほおずきを薬師如来の手で受ける
- 88 襟足の涼しいコスモス畑かな
- 89 水玉の一つを鹿の出できたる
- 90 糸電話のコップを重ね夜食とる
- 91 まあたらしい星座にまぎれ夜学の子
- 92 霧の窓こちらの本は乾いている
- 93 映像を絞りつくした檸檬かな
- 94 赤い羽根つけてかさぶたが分厚い
- 95 赤い羽根空の匂いを嗅ぐ教室
- 96 先生の親指憎し林檎かな
- 97 十月の茶碗を持って並びける
- 98 新米を洗い信心ぶかくなる
- 99 大陸にもろとはかなき秋刀魚焼く
- 100 マネキンを足から入れて鶴来たる